

令和6年度

馬路小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自ら学び続ける子どもを育成する。

○家庭・地域・他校と連携し、少人数を生かして子どもの生きる力を育成する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
3・4年担任：
中山祐子

委員

校長・総括：新藤 克己
教頭・総括補佐：横田 昌人
1年担任：田原 泰子

校長

新 藤 克 己

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や教員からの報告等で、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○国語・算数の「知識・理解」の領域については一定の成果が見られ、単元テストではよい成績がとれる児童が多い。 ●語彙数が少なく、問題を読み取る力や自分の考えをまとめる力に課題がある。 ●日記などで意欲的に漢字を使って書くことが少ない。	・各学年で習得する基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・学期末漢字・計算テスト(80点以上)の達成率70%以上。 ・日記や作文の中で既習の漢字や表現方法を使うことができる。	・基礎的な漢字や計算のスキル向上のために、宿題や朝活で継続的に練習を行う。 ・朝活で読書活動(新聞活用含む)に取り組み、読書カードでチェック集計し語彙力の向上につなげる。 ・タブレットを活用した反復学習の機会を設ける。	・漢字の書き取りにおいて課題が見られるので、類題プリントなどを反復して取り組ませる。	・計算に比べ、漢字の書き取りにやや課題は見られるが、テスト80点以上の達成率は70%を超えることができた。 ・全ての学年で、基礎的な内容の反復練習を行った結果、少しずつ力はついてきている。	・既習漢字の更なる定着に向けた手立てを考える。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や手順が決まっている活動に意欲的に取り組むことができる。 ●自分の考えを、筋道立てて表現することが苦手である。 ●友だちの意見を参考にして自分の考えを深めようとする意欲に課題がある。 ●人を見てから行動することが多く、自分で考えて行動する児童が少ない。	・文章を読んだり話を聞いたりするときに、知っている事柄と比較したり関連付けたりしながら情報を得ることができる。 ・友だちの発表を聞いて、質問したり自分の考えを伝えたりすることができる。	・ポイントになる文にアンダーラインを引く等し問題文の意図を読み取る力をつける。 ・読み取る際のキーワードなどを示す。 ・児童との会話を大切にし、正しい表現方法を伝えられるようにする。 ・タブレットを活用し、学習したことを表現する機会を多く設ける。	・語彙力を上げるために、教師が言葉の説明をしたり、実際に経験できるようにすることはしていく。	・文章を読む際にポイントになる部分を知らせることで、問題を読んだり考えたりすることに慣れてきた。 ・応用的な問題や、友達の発表を理解することが不十分なため、思考力や表現力に課題が見られた。	・聞いて理解する力の向上のため、朝会などで話を聞いた後には内容確認の時間を取る。 ・語彙数を増やすために国語の教科書の巻末を使用するなどして、表現力向上に努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題は最後まで終わらせようとする意欲がみられる。 ●自ら課題をみつけ、解決しようすることに苦手意識がある。 ●周りの手助けを最初から期待して、自分で物事を解決しようという姿勢があまり見られない。	・家庭学習は各学年で目標としている時間(低学年10分・中学年30分・高学年60分)以上取り組む。 ・自分の苦手な学習を把握し課題や学習に積極的に取り組むことができる。 ・友達の発表を、自分の意見と比較するなどして、考えながら聞くことができる。	・現在の生活や学習をふり返る機会を定期的に設ける。 ・振り返りしやすいノート指導をし、主体的に自己課題に取り組めるようにする。 ・国語辞典やタブレットを使って、いつでも調べ学習ができるようにしておく。 ・聞き方のポイントを提示する。	家庭学習時間の目標を達成できるように、学級便りを通して保護者にも協力依頼をし、継続して取り組む。	・自分の課題を理解し、自主勉強などで克服しようとする姿が見られ始めた。 ・家庭学習課題を自ら増やすなどの積極的な姿勢も見られ始めた。	・学習の仕方に幅を持たせられるように、色々な学習方法を提示していく。

令和6年度 学力向上ロードマップ



